

# The Gallery voice NO-69

編集・発行／ 画廊沖縄 〒901-1114 沖縄県南風原町神里 373 番地／TEL (098)888-6117 / 2023.8.18  
Gallery Okinawa / 373 Kamizato Haebarucho Okinawa Japan www.galleryokinawa.com

## 《結び, You-I》が イギリスにもたらしてくれるもの

富澤ケイ愛理子

2023年春、沖縄県南風原町出身の照屋勇賢の代表作の一つ《結び, You-I》の最新作が大英博物館に収蔵されたことは、沖縄のみならず、世界のファンにとっても大変嬉しいニュースであった。これは大英博物館が照屋作品の芸術性を評価しただけではなく、沖縄の問題をイギリスでも共有できると理解を示している証である。



「結び, You-I (藍と朱)」2003年

《結び, You-I》は、ローカルに根差しながらグローバルな視野で活動してきた照屋でなければ創造することができなかった作品だ。この作品は、浅井由美子作の色味がとりわけ美しい芭蕉布に、創作紅型作家の金城宏次が紅型染めを施したものである。一見、琉球の伝統的な染織である貴重な芭蕉布の着物と、琉球国時代の伝統紅型技法と構図とが融合した華やかで優美な紅型着物にも見えるが、近づいてみると、現代沖縄が抱える社会問



「Bingata Flag」2012年  
題を示唆するモチーフ、オスプレイ、パラシュートで降りてくる兵士、辺野古で破壊されていく自然生態系の一つであるジュゴンなどが描かれていることに気が付く。しかし、そこに重苦しさはなく、むしろ明るさとユーモアを感じさせる。

こうした沖縄の伝統芸術にしばしば見出される明るさとユーモアは、二重、三重の被支配下に置かれた複雑で厳しい歴史の中で、沖縄の人々が生活の知恵として育んできたことに起因すると考えられる。伝統の柄に様式を整えることで、支配者（植民地者）を兵士や軍用機といった、暴力、支配者のイメージに対して、「伝統、古典様式」を、支配者を統制する側に立たせるという力関係の転換に照屋は注目する。沖縄を伝統の力によって、「被植民地者」ではなく「脱被植民地者」に転換しているのだ。

《結び, You-I》が大英博物館に収蔵された理由は、作品が持つ伝統、高い技術力、そして芸術性に加えて、沖縄だけではなく、国境を越えて世界が取り組んでいくべき、民主主義、軍事問題、脱植民地主義といった共通する諸問題を芸術として訴えかけるからだ。この秋には、大英博物館最上階にある日本ギャラリーで《結び, You-I》が展示されることが予定されているが、観衆はこの作品を通して、沖縄の芸術に関心を深めるだけではな

く、極東で今実際に起きている問題を他人事ではなく、身近な問題として捉える機会を得るだろう。

現在、イギリスでは、大英帝国時代の植民地支配という負の遺産に向き合い、解決に向けた活動が加速しつつある。例えば、教育機関では「脱植民地主義」運動が教育カリキュラムに影響を与えており、こうした動きは単に自己反省だけではなく、多様性、他者との相互理解の重要性をも教えてくれる。とはいえ、現状は欧米中心主義的な立場からの運動が中心であるため、今後は欧米以外の「脱植民地主義」にも意識を向ける必要がある。そういった意味でも大英博物館の《結い, You-I》は、より多くの人々が、アートを通して沖縄の「脱植民地主義」を共有し、学ぶ機会を与えてくれる。



「KAMEZHIRO」2009年

画家の安谷屋正義は1967年、「沖縄画壇の展望とその将来—芸術選賞受賞を時点とする」と題した美術評論の中で次のように述べている。

「優れた芸術というものは、民族や国境を乗り越えて世界の人々の胸をうつ。然し、このような芸術は、世界のどの民族の嗜好にも合致するように計算されて作り出されたものではない。事実とは全く逆であって、特定の民族、特定の環境、特定の個人が、ある時代を真剣に生き抜いた記憶が、それが凝結されれば、される程、純粋な人間像として昇華され、国境を乗り越えて、歴史や地域を別にした人々の心をも打つようになるのだ。」

## The Gallery Voice No-69.2023.8.18 画廊沖縄

安谷屋にも「脱被植民地者」を描いた作品が存在すると注目している照屋は、安谷屋が目指した自己批判、相互批評を実践し、脱植民地主義の眼差しで、よりトランスナショナルに活動の場を広げていくことだろう。照屋のローカルでグローバルなアート活動はこれからも様々なボーダーに挑戦し、越えていくことは間違いない。



「Elizabeth」2022年

今回、画廊沖縄での個展、「West Collection」の招待状には、紅型染めの型紙になった「エリザベス女王」が選ばれている。この型紙は、2022年、大和ファンデーションの個展で発表された。

画家が主題を描くとき、被写体自体がその作家の工程に統制されることがある。被写体は、アーティストの感覚の統治下に置かれる。「エリザベス女王」が紅型となるということは、紅型の影響のもと、「様式化」されることを意味する。照屋は、この過程を、「統治」や「紅型による美的主観の翻訳」と呼ぶ。「エリザベス女王」は、「紅型の型紙化」されることで、結果的に長いまつ毛や、アイシャドーを得ることとなった。

(イーストアングリア大学専任講師・ミシガン大学トヨタ客員教授/とみざわケイエリこ)

## YUKEN の紅型

### 「琉球・沖縄」の言葉で話すこと

田原美野

照屋勇賢の紅型「結い、You-I」が、大英博物館に収蔵された（2023年6月）というニュースは、制作を始め発表（2002年VOCA奨励賞受賞）してから、約20年という歳月をかけ、西側の世界に照屋のスピーチが汲み取られ、理解された事を示す、ひとつの「結実」を見たように思う。

「結い、You-I」は、沖縄の伝統的染色技法である紅型が、様式として用いられている。紅型独特の豊かな色彩、中国や日本から影響を受け洗練されてきたモチーフである型、形式にとらわれない自由さがありながら、絶妙にバランスのとれた構図。古典紅型のルールを熟知し、紅型作家として活動していた金城宏次を協働者として得られたことで、照屋の紅型は、言葉に成った。



「結い、You-I」(部分) 2002年

しかし言葉話すだけでは、話は相手に伝わらない。その内容がハッピーなものでない場合、さらに壁は厚く、耳を塞いでしまう。耳を傾けてもらうためには、視覚的に一瞬で相手を引き惹きつけ、わかり易く、さらに共感が伴うような内容（描かれているもの）と表現方法（描き方）になるよう工夫が必要である。照屋は、沖縄の歴史や今ある日常を、「紅型」という美しい言葉に乗せて、相手（沖縄の人や日本人、海外の人）にわかるように話し続けてきたのである。

## The Gallery Voice No-69.2023.8.18 画廊沖縄

作品タイトル「結い、You-I」(ゆいゆい)にも、照屋の巧妙な仕掛けがほどこされている。「ゆいまーる」とは沖縄の言葉で「相互扶助」、「助け合い」の精神を表す。「ゆいゆい」と反復される単語はリズムよく、思わず山川まゆみの歌「ユイユイ」(1997年)を口ずさんでしまう。さらに日本語のローマ字で「You-I」(ゆい)と読ませつつ、「あなた」(他者)と「私」(自己)を結ぶ。そして最終的に、琉球王府の権威の象徴である紅型の様式を保ちながら「着物」に仕立てることで、日本という国への同化と包括への抵抗を、意図しているようにも思える。照屋の様々な工夫(ねらい)は、見る人、届けられる人によって、話の内容が変化するという変容性を帯びている。それは地域の違いや時代を経ても、おそらく色褪せることはない。



「HIROHITO」2012年

描くことが、何かを乗り越え、何かから解放されようとするのだとすれば、照屋の言う「自由を獲得」する行為に近いのかもしれない。とりわけ、何を描くか、何が描かれているかを見ていけば、その作品は途端に顔を変える。照屋が、沖縄の言葉で語り始めたとき、それはどのようなメッセージとして届くだろうか。歌詞の一節にある、「ここは沖縄、これが沖縄」だとのメッセージを、私は受け取っている。

(画廊沖縄ディレクター/たはらみの)

# 照屋 勇賢 (1973-)

1996 多摩美術大学美術学部絵画科油画専攻 卒業

1999 メリーランド・インスティテュート・カレッジ・オブ・アート (アメリカ)  
ポストバチュラープログラム修了

2001 スクール・オブ・ビジュアルアーツ MFA(アメリカ) 修了

## 【主な個展】

2023 照屋勇賢展 11月予定：(沖縄県立博物館・美術館、沖縄)

照屋勇賢展—West Collection—大英博物館コレクション記念：(画廊沖縄、沖縄)

2022 La Mer by Yuken Teruya : (Daiwa Foundation, ロンドン/イギリス)

Unterritorial Territory 照屋勇賢展：(ホテルアンテルーム那覇、沖縄)

照屋勇賢展 CHORUS コーラス～歴史と自然と私たち～：

(那覇文化芸術劇場なは一と、沖縄)

2021 照屋勇賢展 - Roots-線と色とかたち：(画廊沖縄、沖縄)

2020 WE BELONG HERE：(Piero Atchugarry Gallery, マイアミ/アメリカ)

2018 CUTTING TREES：(Sugar Hill Children's Museum of Art & Storytelling,  
ニューヨーク/アメリカ)

2017 照屋勇賢展—遙か遠くからのパレード：(画廊沖縄、沖縄)

2015 Yuken Teruya on Okinawa：(Dahlem Ethnological Museum/ Asian Art Museum,  
ベルリン/ドイツ)

2013 Area of Calm、Gallery Zero：(アーツ前橋、群馬)

2012 照屋勇賢展—I have a dream—：(画廊沖縄、沖縄)

2010 ひいおばあさんは USA：(上野の森美術館、東京)

Free Fish >-: The Art of Yuken Teruya:

(アジアソサエティー、ニューヨーク/アメリカ)

2009 照屋勇賢展—Cut—：(画廊沖縄、沖縄)

2006 ストレート・フレーバー展：(広島市現代美術館、広島)

照屋勇賢—水に浮かぶ島展：(アサヒ・アートコラボレーション、すみだリバー  
サイドホールギャラリー、東京)

2005 Yuken Teruya：(アルドリッチ現代美術館、コネチカット/アメリカ)

## 【パブリックコレクション】

大英博物館 (イギリス) / 東京国立近代美術館 (東京) / 沖縄県立博物館・美術館 (沖縄) / 金沢 21 世紀美術館 (石川) / 高松市美術館 (高松) / 佐喜眞美術館 (沖縄) / 第一生命美術館 (東京) / 森美術館 (東京) / 大和ラジエーターコレクション (広島)